

## (1) WoS にウォッス (10号~16号)

学術論文データベース Web of Science の利用についてのちょっとしたヒント。

### 第1回目 気になる論文の人気度を見張る (10号・2005.11)

気になっている論文がありますか。ライバルの論文であったり、自著であったり、その人気度を知っておきたい論文があるかと思えます。もし、その論文が他の論文に引用されると電子メールで知らせてくれる機能が Web of Science にあります。手順は簡単です。

- (1)図書館ホームページから、データベース、Web of Science をクリックします。
- (2)Web of Science Go ボタンを押します。
- (3)GENERAL SEARCH をクリックします。
- (4)TOPIC 欄の論題の一部、AUTHOR 欄に姓を入力して、Search ボタンを押します。

- (5)一覧の中から該当論文を見つけます。
- (6)画面右の Create Citation Alert ボタンを押します。

自分の e-mail アドレスを入力すると、後は自動的に電子メールで知らせてくれます。

自分の登録した関心分野の論文が刊行されるたびに知らせてくれる機能はよくありますが、引用をチェックしてくれるというのはこのデータベース固有の機能です。ライバルの論文を登録しておく、知らせメールが届くたびにやきもきすることになるかもしれませんね。

### 第2回目 引用と被引用 (11号・2005.12)

Web of Science の論文詳細表示画面では、引用数と被引用の回数が次のように示されます。

Cited References: 51      Times Cited: 37

Cited という単語が両方に入っているために、この両者がこんがらがることがあります。Cited References はこの論文が引用した文献の数、Times Cited はこの論文が引用された回数とでも訳すのですが、和訳したと

ころで分かりにくさは変わりません。

それぞれ2つの単語からなっていますが、最初の1語だけに注目すると少しわかりにくさが解消されます。つまり Cited と Times だけにします。

「引用した」、「回数」となりますから、その意味するところが混乱なくつかめるでしょう。

### 第3回目 Book の引用も探せます (12号・2006.1)

Web of Science の収録対象は学術雑誌です。一般の OPAC のように図書は探すことができません。しかし収録された学術論文が引用しているものは探すことができます。その論文が図書を引用していたらそれを探ることができるわけです。

レイチェル・カーソン著『沈黙の春』は、環境汚染のおそろしさを訴えた衝撃の図書で、今から40年前に出版

されました。この図書を引用している学術論文を Web of Science で探してみましよう。

- (1)上手に検索するために OPAC(学内蔵書検索)等で正しい書名、著者名を確認します。原書名、著者のつづりが分からないときは翻訳書名(『沈黙の春』)で探して、そこから原書の情報を得ます。

沈黙の春 / レイチェル・カーソン [著]; 青樹築一訳<チンモク ノ ハル>. -- 62 刷改版. --(BA6923629X)

東京 : 新潮社, 2004.6

394p ; 16cm. -- (新潮文庫 ; カ-4-1)

ISBN: 4102074015

別タイトル: Silent spring

著者標目: Carson, Rachel, 1907-1964 ; 青樹, 築一<アオキ, リョウイチ>

原書の書名と著者のつづりが分かったところであらためて OPAC で原書の情報を検索します。

Silent spring / by Rachel Carson ; introduction by Lord Shackleton ; preface by Julian Huxley. -- (BA21140227)

London : Readers Union, Hamish Hamilton, c1962

xxii, 304 p. ; 21 cm

注記: Bibliography: p. 245-293 ; Includes index

著者標目: Carson, Rachel, 1907-1964

(2)準備が整ったら、Web of Science で検索します。

図書館ホームページ Web of Science Web of Science GO CITED REFERENCE SEARCH と進みます。

CITED AUTHOR 欄に CARSON R\*、CITED WORK 欄に SILENT SPRING を入力します。

CITED AUTHOR 欄に Rachel Carson と入力すると、ヒットしないことがありますので、なるべく例のように検索することが大切です。

(3)たくさんの引用がヒットします。引用ページが違ったり、版はおなじでも印刷された年が違ったりすると別な引用としてヒットします。

## 第4回目 1995年より前に書いた論文の引用された回数調べ (13号・2006.2)

徳島大学の Web of Science の契約は 1995 年 1 月分以降です。しかし、1995 年より前に発行された論文の引用が調べられないというわけではありません。

例えば 1980 年にある論文が発行されたとします。この論文は翌年の 1981 年には何件か引用されるでしょう。次の年 1982 年にも引用されるでしょう。そして寿命の長い論文であれば、1995 年、1996 年になっても多くの人に引用されつづけるかもしれません。

ある文献を引用している論文を探す場合は Web of Science のメニューから Cited Reference Search を利用します。この時、文献を第一著者で検索すると、契約年にかかわらず全被引用回数がかかるのです。

例えば、アインシュタインが 1916 年、「ANNALENDER PHYSIK」という雑誌に一般相対性理論を発表しています。この論文を徳島大学内で検索すると、456

件ヒットします。この 456 件は、1995 年以降に引用された回数ではなく、Web of Science の対象年 (1900 年以降に発行された論文) での全被引用回数なのです。ただし引用した論文の情報は、1995 年以降のものしか分かりません。今回、引用した論文を表示させてみると 152 件出てきました。この 152 件が 1995 年以降にアインシュタインの論文を引用した件数ということになります。

Web of Science は 1900 年以降に発行された学術論文を対象としています。その全データを検索しようとするれば、それなりの契約が必要です。高価ですので、各大学は必要に応じて契約しています。

最近九州大学が国内の大学で初めて 1900 年以降の全データアクセスを導入しました。ちなみに徳島大学では過去 10 年分のデータになっています。

## 第5回目 検索式の再利用 (14号・2006.3)

Web of Science の General Search では、TOPIC,AUTHOR などの各項目を指定して論文が検索できます。

検索の事例によっては、入力する単語に苦勞することがあります。

何度トライしても的確なものがヒットしなくて時間切れになったようなとき、それまでの苦勞を保存しておきたいことがあります。このようなときに検索履歴を保存しておくのが save history です。検索しているパソコンのハードディスクに保存するか、Web of Science の

サーバに保存する方法があります。次回、Web of Science を使う時に、保存したものを呼び出すことによって検索の続きが出来ます。

証拠のためにとっておくという使い方もあります。ある検索をしてヒット件数 0 になったときなどは、その証拠として保存しておくといいでしょう。

例えば、次のような検索式を入力すると 0 件になります。入力したキーワードが誤っているのですが、それに気がつかずに、カマキリをロボット工学に応用した論文

が世の中に存在しないと判断してしまったら大変なことになる。

praying munt\* and robot\*  
(正しくは praying mant\* and robot\*)

save history では、保存した検索式を呼び出すことはできるのですが、その一部を再利用するという使い方はできません。再利用、つまり検索式の一部を利用したいときは、SEARCH HISTORY で呼び出しておいて、表示

される検索式をコピーして、Advanced Search の入力欄にペーストしてから、修正するといいいでしょう。

検索式をそのまま再利用することは簡単です。論文が新しくでたかどうか、時間をおいてもう一度、前回と同じ検索を試してみるというような用途には便利でしょう。

せっかく時間をかけた検索です。ぜひ保存しておく習慣をつけましょう。

## 第6回目(最終回) 見つけた論文の整理 (15号・2006.4)

Web of Science で検索した論文は、パソコンに保存できますが、文献管理ソフトを使うとより便利に利用ができます。Web of Science と同じ Thomson 社の販売している文献管理ソフトに"EndNote"というのがあります。

"EndNote"の文献リストのファイルを Library という単位で保存します。

Web of Science の検索結果マークリストから"EXPORT TO REFERENCE SOFTWARE" ボタンをクリックし、選択した Library に追加しながら文献リストを作成します。

Web of Science の検索結果などから入手した論文の PDF ファイルは、Library から呼び出すことができます。文献リストと全文情報を一緒に管理できるのです。同じ名前で保存するようにすれば、検索の度に自分用の文献リストが貯まっていきます。

Microsoft Word で論文を作成した場合は、参考文献リストを論文の末尾に自動作成してくれます。

文献管理ソフトには、"EndNote"以外にも価格や機能によって数種の製品があります。フリーのものもありますので目的や好みによって選んでみてください。

## 番外編 (16号・2006.5)

### (1) 大量のインパクトファクターを調べる

ジャーナルのインパクトファクターを調べるときは、メニューのひとつである Journal Citation Reports(JCR)を使います。

数点のジャーナルを調べる時はマニュアルやガイドに従って検索していけばいいのですが、数十点以上のジャーナルについてインパクトファクターを調べなければならぬ時、どうすれば手際よくできるでしょうか。

JCR での誌名による検索はちょっとクセがあります。いつも使っている検索サイト(OPAC など)でそのジャーナルの ISSN(8桁の数字、あるいは4桁 - 4桁の数字)を調べます。対象となっているジャーナルの ISSN を全部調べておいてから、JCR の画面で ISSN を使って検索します。

ISSN という単純なキーを使えば、JCR 独自の検索ルールを意識しなくても、ジャーナルは確実にヒットします。

### (2) 問い合わせメールは日本語で

Web of Science の画面は英語です。操作する時や出てきた画面で不明な点があったとき、何を調べますか。ヘルプやチュートリアルも英語でイライラした経験はありませんか。細かいニュアンスのことを知りたくてお困りになったことはありませんか。

ご安心ください。電子メールでの問い合わせは日本語でできますし、回答も日本語です。

Web of Science の各ページの下にある The Thomson Corporation のリンクをたどっていくと、トムソンコーポレーション株式会社(日本法人)のページにたどりつくことができます。

ここには問い合わせ先の電話番号、電子メールのアドレスがあります。

